



「リアルすぎる地域政治のお話会」にて

10/26 越谷市長選

ネットは福田晃市長の支援を決定

10月26日に予定されている越谷市長選挙には、現職の福田晃市長と、元市議の畔上順平氏が立候補の意向を表明しています（7月20日現在）。

私たち越谷市民ネットワークは、福田市政4年間の実績を政策ごとに検証し、これからの越谷を共につくる市長として、福田晃氏を支援することに決定しました。

4年間で44項目100の実績を達成

福田市政は2021年、コロナ禍のさなかにスタート。中核市として保健所を有する強みを活かし、**ドライブスルー型のPCR検査を実施**しました。また、2023年の台風2号では、観測史上最多雨量を記録し市内の約4分の1が浸水する甚大な被害が発生。これを教訓に緊急治水プロジェクトを立ち上げ、**新規調節池設置計画**などの治水対策が進みました。

また、こども政策では子ども医療費助成の対象が18歳に引き上げられたほか、子ども食堂や学習支援立ち上げに市独自の補助金制度を創設。教育では、物価高騰による学校給食費の値上げを抑えるための材料費補助や、移動式プレーパークの拡充、障害の有無に関係なく一緒に遊べる「**インクルーシブ公園**」の設置などが実現しました。

私たちは、こうした取り組みをさらに発展させ、すべての子どもが安心して育ち、地域に居場所と希望を持てるまちをめざして、福田市政とともに取り組んでいきます。



4年間の実績はこちら

公共施設やインフラの老朽化と向き合う

越谷市では、公共施設や給食センター、市立病院などインフラの多くが築30年から40年となり、更新の時期を迎えています。改修や建て替えなどの対応を先送りすれば、安全性や市民サービスに影響が出かねません。

同時に人口減少・少子高齢化が進むなかで、公共施



福田市長と一緒に

設の廃止・縮小・統合を含めた見直しを市民と共に進めていくことが避けられない時代を迎えています。誰にとっても使いやすい施設をどう維持していくのか、**市民参加で合意形成を行う必要があります。**

また、八潮市で起きた道路陥没事故に見られるように、目に見えない部分の安全確保にも計画的かつ着実な対応が求められています。

サンシティの再整備などまちのにぎわいづくりも重要ですが、限られた財源の中で優先すべきは給食センターや市立病院、高齢になっても障害があっても暮らしやすいまちづくりといった、**市民の命と暮らしを支える基盤整備**ではないでしょうか。

越谷を次のステージへ

福田市長は、決して派手なパフォーマンスをするタイプではありませんが、堅実でまじめ、誰に対しても分け隔てなく対話を重ねてきた人物です。

人口減少やインフラの老朽化、財政負担の増大など、選択と集中が求められる現実のなかで、現職市長として困難な課題から逃げずに向き合ってきたからこそ、次の4年間で託す価値があると考えます。

困難な時代だからこそ市政を「お任せ」にするのではなく、市民が参加し責任を持つ越谷市を共につくりていしましょう。